

第71回日本酪農研究会 千葉県成田市にて開催

北海道統括支店 業務課 河野 直和

日本酪農青年研究連盟（酪青研：山下 博委員長）主催の第71回日本酪農研究会が、11月19～21日の3日間、成田ビューホテルにて、全国から約310名の参加者を集めて盛會に開催されました。

本研究會の開催目的は、日頃の経営成果と実践活動の発表に併せ、分析検討・知識技術の交流を通し、山積する諸問題の解決を図りながら、国際競争に勝ち残る我が国の農産物の未来を切り拓き、発展に寄与することです。

酪青研の山下委員長は「TPP11、日欧EPAが始動し国際競争に乗り出し、時代のうねりが我々を巻き込もうとしている。日本の酪農は様々な環境において培ってきた多様性の強みを結集して、自給飼料増産、継続的な生産コストの低減、搾乳ロボットやITなど新しい技術活用による経営効率化、足腰の強い経営への進化の実現などの課題に対応すべく自らの強みを充実させる取り組みがこれからの時代を生き抜くカギとなるのではないかと。今大会においても新しい時代を象徴するような経営発表・意見事例発表が集まった。これらの発表は勇気を持って前に進もうとしている全国盟友を後押しし経営の一助となるよう期待している。」と挨拶されました。

雪印メグミルクグループを代表して西尾代表取締役社長は「日欧EPA、TPP11をはじめ様々な自由貿易協定が動き出し、まさに乳の国際化が進展している。国内では改正畜安法が施行され新たな生乳取引の枠組みが始まった。環境がどう変化しようと酪農乳業界の関係者一丸となり、現場を見据え知恵を出し合って乗り越えられる業界だと確信している。私ども雪印メグミルクグループは、乳（ミルク）を通じて持続可能な社会の実現にむけて貢献していく。創業者の黒澤西蔵翁はかつて循環農法を提唱し「酪農救国」を訴えた。また、農業とは天地人の合作によって人間の生命の糧を生み出す聖なる生業だと語っている。まさに今、取り組んでいる持続可能な社会の実現にむけて貢献することと精神を同じくするといっても過言ではない。これからも雪印メグミルクグループは酪農家の皆さんと手を携え、安

全・安心で、且つ、乳（ミルク）にこだわった価値のある商品を生産者に届けていく。本日の研究会がみなさんにとって意義あるものとなるよう祈念している。」と挨拶されました。

研究会では、全国から選抜された酪農家6名による酪農経営発表と5名の意見・事例発表が行われ、酪農経営発表の中から「7人の子どもたちとともに」と題して発表した北海道協議会東根室地方連盟上風連研究会の藤田巨彦（ふじたのぶひこ）さんが最優秀賞（黒澤賞）・農林水産大臣賞と、「豊かな生活を実現する経営者に贈られる」太田賞をダブルで受賞されました。当社からも藤田氏には雪印種苗賞とあわせて副賞のカーネーションを贈呈させていただきました。

受賞された藤田氏は埼玉のサラリーマン家庭の出身で大学卒業後大手通信企業に勤められ、社会人4年目の春、北海道に渡り4年間の実習・研修を受けた後、別海町で新規就農されたという方で、子育てと酪農を両立され、作業の棚卸・整理に取り組み、放牧の実践、短草管理を徹底して個体乳量・乳飼比の改善を図り成果を上げたことが評価され今回の受賞となりました。

今回の経営発表での特徴は、後継者不足、人手不足、耕畜連携が共通のテーマでの発表と地域の為に継続出来るよう将来を見据えた発表が強く印象に残りました。また、酪農経営における課題や改善に向けた取り組みと成果について学ぶとともに、全国の参加者（盟友）と集う貴重な情報交換の機会となりました。

発表会後に行われた特別講演では、「日本一の技術で、日本一の乳牛を！・・・大網高等学校の日々の取組」と題して千葉県立大網高等学校農業科の生徒の皆さんより酪農に対する熱い思い、実際の学習内容の紹介をいただき、続いて「江戸っ子に叱られるー今こそモッタイナイ生活をー」と題し、落語家の桂 右女助師匠よりご講演いただき大変有意義な全国大会となりました。



・山下委員長の挨拶



・最優秀賞（黒澤賞）を受賞された藤田巨彦氏



・当社高山社長より雪印種苗賞（副賞のカーネーション）の授与



・最優秀賞（黒澤賞）の授与



・当社高山社長より雪印種苗賞の授与



・雪印種苗展示ブース